

2022年度 環境経営レポート

自 2022年06月01日
至 2023年05月31日



認証番号 0010729

発行日：2023年06月10日

日本ニューロン株式会社

[目次]

1 .環境経営方針	… P2
2 .組織・事業の概要	… P3
3 .認証登録の対象範囲	… P3
4 .環境マネジメント実施体制	… P4
5 .環境経営目標	… P5
6 .中期環境経営目標	… P6～10
7 .自然共生活動	… P11～14
8 .環境関連法規等の遵守評価結果、 違反・訴訟の有無	…P15
9 .代表者による全体の評価と見直し指示	…P16～17

1. 環境経営方針

社 是 ～Be Comfortable!～ ～こころよく、こちよく!～

《行動方針》

日本ニューロン株式会社は、身近なライフラインからエネルギー開発、宇宙産業にいたるまでのあらゆるエンジニアリングにおいて、パイプラインをジョイントする役割をもつ「伸縮管」を創造しております。

当社の創造活動が地球環境に及ぼす影響を認識し、エコアクション21を取り入れた環境マネジメントシステムを確立し、全社員で運用、改善向上を継続的に進めていきます。

1. 環境に経営を位置付けて環境経営推進をめざし、経営における課題とチャンスを明確にして環境への取り組みに反映させます。
2. 事業活動に伴う環境側面を適切に管理し、地球環境への負荷の低減と汚染の予防に取り組みます。
3. 低炭素社会、循環型社会、自然共生社会づくりに役立つ、製品・技術及び工法の開発に取り組みます。またグリーン調達に努めます。
4. 環境マネジメントシステムを定期的に見直し、有効性を高め、継続的な改善に努めます。
5. 環境関連法規制及び地域並びにお客様の環境関連要求事項を遵守します。
6. 環境経営レポートを通じて、環境活動の状況を社内外に公開します。
7. 本方針を全従業員に周知します。
8. SDGsを環境経営に活かして推進いたします。

制定日	2011年11月01日
第一回改定日	2019年 6月15日
第二回改定日	2021年 6月28日

日本ニューロン株式会社
代表取締役 岩本 泰一

2. 組織事業の概要

事業者名	日本ニューロン株式会社
代表者名	代表取締役 岩本 泰一
事業所名/所在地	本社 京都府相楽郡精華町光台三丁目2番地18 東京オフィス 東京都品川区東五反田1丁目10-7
E M S 管理責任者	正 専務取締役 岩本 康浩 副 総務部部長 橋本 茂美
E M S 担当者	総務部 山本 萌香
連絡先	TEL:0774-95-3900 fax:0774-95-3905 ホームページ： https://www.neuron.ne.jp E-mail：info@neuron.ne.jp
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 各種伸縮管継手、熱交換器用厚肉ベローズ、フレキシブルチューブ、ダンパ、圧力容器の設計製作 配管応力解析及び金属成分分析

事業規模 《2022年6月1日～2023年5月31日》

売上金額	17億1800万円(2022年度)
資本金	30,000,000円
従業員数	50名
工場延面積	5,152㎡
敷地面積	10,850㎡



3. 認証登録の対象組織・活動

登録組織名	日本ニューロン株式会社
対象事業活動	伸縮管継手等の設計製作,配管応力解析及び金属成分分析
適用対象外組織	けいはんなサウ斯拉ボ「管路防災研究所」 2023年度より適用範囲へ入れる。 (2023年度(2023年6月～2024年5月)は、電気使用量、水使用量を監視し基準年量を把握する。2024年度から目標設定を開始予定。)

環境経営レポートの対象期間・発行日

対象期間：2022年06月01日～2023年05月31日

発行日：2023年06月10日 次年度発行日：2024年06月10日

4.環境マネジメント実施体制

組織図

代表取締役
岩本 泰一

EMS管理責任者
正：専務取締役 岩本 康浩
副：取締役 部長 橋本 茂美

EMS管理事務局
西森 一喜/山本 萌香

営業技術本部
常務取締役
北村 亮太

エンジニアリング本部
主幹
青葉 邦夫

製造本部
工場長
大西 雅行

総務部
取締役 部長
橋本 茂美

品質保証部
マネージャー
森 龍洋

役割分担表

代表取締役	環境マネジメントシステム（EMS）の総括責任 環境経営方針の制定及び周知 環境関連法規制等の周知及び管理 EMSに必要な経営資源の準備 EMS管理責任者の任命 環境経営目標及び環境活動計画の承認 EMSの定期的評価・見直し・指示の実施 環境経営レポートの承認
EMS管理責任者	環境マネジメントシステム（EMS）の構築・運用 EMSを構築・実施し、評価し、代表者に報告 EMSに関する教育・訓練の実施 環境負荷（エネルギー・廃棄物等）データの管理 EMSに関する文書・記録の作成及び管理 環境コミュニケーション 環境経営レポートの作成、公開
EMS管理事務局	EMS管理責任者の補佐
営業技術本部	受注活動。主として、受注担当
エンジニアリング本部	設計開発活動。主として、設計・開発担当
製造本部	製造活動。主として、設備・材料・製造プロセス担当
総務部	総務・外注管理活動。主として、総務機能・外注管理担当
品質保証部	品質管理・品質保証活動。主として、品質管理担当

5. 環境経営目標

事業活動において、次の重点課題に関する目標を設定し取組みます。

- ① 電力消費によるCO2排出量の削減
- ② 化石燃料消費によるCO2排出量の削減
- ③ 全CO2排出量の削減
- ④ 水道水使用量の節減
- ⑤ 廃棄物の分別、減量、再使用、再生利用の推進
- ⑥ 環境に配慮した事業活動の推進
- ⑦ 業務上必要な調達品のグリーン購入の推進
- ⑧ 化学物質の適正管理
- ⑨ 自然共生活動による生態系保全



6.中期環境経営目標 « 2021年度～2023年度目標 » 計画日：2021年6月1日

環境経営方針の実現を目指し、基準年の実績を考慮して、環境経営目標を策定しました。

基準年度：2020年度（2020年6月1日～2021年5月31日）

中期目標策定方針：基準年度実績に比べ 2023年度に 何%削減/増加 ※7.売上は前年度が基準

※2021年度より中期環境経営目標のみ3ヶ年計画、環境経営目標の基準年は基準年を前年とする。

項目	1.電力	2.燃料	4.水	5.産廃	6.一般廃	7.売上	8.研究	9.提案	10.G購入
目標値	△3%	△3%	△3%	△3%	△3%	+3%	+3%	+3%	+3%

環境経営目標 NO 管理指標	基準年 2020年度	2021年度		2022年度		2023年度	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
電力消費量 kWh	264,608	261,962	263,266	259,316	243,973	256,670	
1.電力のCO ₂ 排出量削減 電力による→ Kg-CO ₂	82,190	81,368	81,774	80,546	75,712	79,724	
ガソリン使用量 ℓ	2,597	2,571	2,353	2,545	1,444	2,519	
軽油使用量 ℓ	2,793	2,699	2,854	2,737	2,477	2,709	
灯油使用量 ℓ	2,062	2,041	2,311	2,021	2,213	2,000	
都市ガス使用量 m ³	228	226	230	228	176	221	
プロパンガス m ³	14	14	11	14	10	14	
2.化石燃料のCO ₂ 排出量削減 化石燃料による Kg-CO ₂	18,971	18,781	20,101	18,592	16,544	18,402	
3.1 全CO ₂ 排出量 Kg-CO ₂	101,161	100,149	101,876	99,138	92,255	98,126	
3.2 全CO ₂ 量/売上 百万円当	60	59	54	59	57	58	
4.総排水量（水使用量）の削減 水道水使用量 m ³	2,554	2,528	2,076	2,503	2,422	2,477	
5.1 産業廃棄物削減 kg	6,680	6,613	7,302	6,546	7,168	6,479	
5.2 一般廃棄物削減 可燃ごみ kg	960	950	960	941	960	931	
6.1 事業活動での環境配慮 伸縮管継手等納入金額 百万円	1,680	1,697	1,718	1,714	1,620	1,730	
6.2 事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の完了件数	3	3	4	3	4	3	
6.3 事業活動での環境配慮 改善提案件数	233	235	199	238	163	240	
7.グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	21	21	22	21	25	22	
8.化学物質の管理	規定遵守	規定遵守	規定遵守	規定遵守	規定遵守	規定遵守	
9.自然共生活動 ビオトープ等維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	

備考※（電力消費量は東京オフィス含む） 電力のCO₂排出係数

：0.442 kg-CO₂/kWh（東京ガス㈱2021年度調整後の係数）

：0.309 kg-CO₂/kWh（関西電力㈱2021年度調整後の係数）【今年度12月から電力会社切替】

3.全CO₂量/売上 百万円当の目標値は前年売上対比。

8.化学物質（塗料・溶剤等）の管理は、法規制も含め社内規定に従い実施する。

9.自然共生活動は、P11～「7.自然共生活動」参照

環境活動計画、取組結果、評価、次年度の取組内容

評価：2023年06月10日

2022年度 環境活動計画／実績表（6月～翌5月）

※2021年度より中期環境経営目標のみ3ヶ年計画、環境経営目標の基準年は基準年を前年とする。

環境経営目標 NO 管理指標	指標の 区分	指標の値	単位	達成 状況	結果の評価・考察
1.電力のCO2排出量の削減	基準値 目標値 実績値	81,774 80,956 75,712	kg- CO2	○	昨年の結果から節電を呼びかけ、客先への訪問自粛が明け出張の増加で目標達成。 基準年比：7.5%減
2.1化石燃料のCO2排出量の削減	基準値 目標値 実績値	20,101 19,899 16,544	kg- CO2	○	昨年に比べ通勤での使用廃止、現地作業の減少により達成。
3.1全CO2排出量	基準値 目標値 実績値	101,875 100,857 92,256	kg- CO2	○	基準年比：9.4%減 電力、燃料共に減少のため目標達成。
3.2全CO2排出量／ 百万円当たり	基準値 目標値 実績値	54 53 57	kg-CO2／ 百万円	×	CO2排出量は減少しているが、それに比例し売上も減少したため目標未達。
年度の売上	基準値 目標値 実績値	1,718 1,735 1,620	百万円	×	基準年比：5.8%減 目標年比：3.6%減
4.水使用量の削減	基準値 目標値 実績値	2,076 2,055 2,422	m	×	水道事業の売上増加と比例し、使用量も増加。
5.1産業廃棄物の削減	基準値 目標値 実績値	7,302 7,229 7,168	kg	○	納入業者による引取を継続 昨年に引き続き、連続での削減で 目標達成。 マニフェストに基づき適正な廃棄を遂行。
5.2一般廃棄物の削減 可燃ごみ（紙ごみ）	基準値 目標値 実績値	960 950 960	kg	△	
6.1事業活動での環境配慮 （納入金額 百万円）	基準値 目標値 実績値	1,718 1,735 1,620	百万円	×	基準値，目標値共に目標未達成。
6.2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の 完了件数	基準値 目標値 実績値	4 4 4	件	△	耐震・防災に関する開発を継続中。 来年度から新研究施設が本格的に稼働予定。
6.3 事業活動での環境配慮 改善提案件数	基準値 目標値 実績値	199 197 163	件	×	各部門ISO目標に掲げているが目標未達。 再度発案への個人の意識が必要。
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目 数	基準値 目標値 実績値	22 22 25	品目	○	コストとのバランスを配慮し、積極的に購入するように意識継続。
8.化学物質の管理 社内規定に従い実施					規定遵守
9.自然共生活動 ビオトープ等維持		けいはんな記念公園様指導のもと、メンテナンスを継続 また、多様な生物の発見もあり、自然共生を意識したビオトープを維持できている。			

2022年 達成手段・取組評価

	達成手段	取組評価 (○・×)
1.電力のCO ₂ 排出量の削減	休憩時間の消灯（事務所、工場） クールビズ・ウォームビズの推奨	○ ○
2.1化石燃料のCO ₂ 排出量の削減	現在の省エネの取組みを 周知徹底していく。	○
3.1全CO ₂ 排出量	工場屋根に遮熱塗料塗布を行い 継続的な暑さ対策を取り入れた。	○ 使用電力を増大させずに暑さ 対策を行い効果があった。
3.2全CO ₂ 排出量/百万円当たり		×
年度の売上		×
4.水使用量の削減	水道事業の案件が増え使用量の増加が見込まれる が日々の生活で節水意識を持つ。	○
5.1産業廃棄物の削減	入荷品の簡易梱包依頼 木製パレットの納入業者引取依頼 パレットや梱包材の再利用	△ ○ ○
5.2一般廃棄物の削減 可燃ごみ（紙ごみ）	裏紙プリンターの増設。両面印刷機能活用。	○
6.1 事業活動での環境配慮 （納入金額 百万円）		×
6.2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の完了件数	机上のシュミレーションと実験による実証を組み 合わせて研究開発を推進する。	○
6.3事業活動での環境配慮 改善提案件数	月一人1件の目標設定を制定。	×
7. グリーン購入環境配慮製品 購入品目数	エコ商品の推奨	○
8.化学物質の管理社内規定に従い実 施	規定遵守	
9.自然共生活動ビオトープ等維持	ビオトープにかかる老朽化した橋を社内メンバーでリメイクを行った。 また、けいはんな記念公園様の指導の元、水質改善が進み、きれいな水 になり、生き物の生態系維持も継続している。	

次年度（2023年度）の環境経営目標・環境経営計画

※2021年度より中期環境経営目標のみ3ヶ年計画、環境経営目標の基準年は基準年を前年とする。

環境経営目標 NO 管理指標	指標の区分	指標の値	単位
1.電力のCO ₂ 排出量の削減	基準値 目標値	75,712 74,955	Kg-CO ₂
2.1化石燃料のCO ₂ 排出量の削減	基準値 目標値	16,544 16,378	Kg-CO ₂
3.1全CO ₂ 排出量	基準値 目標値	92,256 91,333	Kg-CO ₂
3.2全CO ₂ 排出量/百万円当たり	基準値 目標値	57 56	Kg-CO ₂ /百万円
年度の売上	基準値 目標値	1,620 1,636	百万円
4.水使用量の削減	基準値 目標値	2,422 2,398	m ³
5.1産業廃棄物の削減	基準値 目標値	7,168 7,294	kg
5.2一般廃棄物の削減 可燃ごみ（紙ごみ）	基準値 目標値	960 950	kg
6.1 事業活動での環境配慮 （納入金額 百万円）	基準値 目標値	1,620 1,636	百万円
6.2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の完了件数	基準値 目標値	3 3	件
6.3事業活動での環境配慮改善提案件数	基準値 目標値	163 165	件
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	基準値 目標値	25 25	品目
8.化学物質の管理 社内規定に従い実施	規定遵守		
9.自然共生活動 ビオトープ等維持	年間を通じて、けいはんな記念公園に改修メンテナンスを依頼、継続中。絶滅危惧種のバッタや貴重な生物の生息が確認できた。池の水質も改良され、きれいな水になっていきている。 今後、自社でのメンテナンスも含めビオトープの管理を行っていきます。		

次年度（2023年度）の達成手段目標

	継続達成手段	新追加 達成手段
1.電力のCO ₂ 排出量の削減	休憩時間の消灯（事務所、工場） クールビズ・ウォームビズの推奨	変動時間制導入による 省エネ・省資源の推進
2.1化石燃料のCO ₂ 排出量の削減	現在の省エネの取組みを 周知徹底していく。	用途に合った車の使用
3.1全CO ₂ 排出量	工場屋根に遮熱塗料塗布を行い 継続的な暑さ対策を取り入れた。	遮熱塗料塗布、オーニング(日よけ)を 設置により作業効率も大幅に上がった。 継続。
3.2全CO ₂ 排出量/百万円当たり		
年度の売上		
4.水使用量の削減	水道事業の案件が増え使用量の増加が 見込まれるが日々の生活で節水意識を 持つ。	従業員みんなで日々の節水意識を持つ。
5.1産業廃棄物の削減	入荷品の簡易梱包依頼 木製パレットの納入業者引取依頼 パレットや梱包材の再利用	廃棄物分類一覧を掲示し 適正な廃棄を各自意識する。
5.2一般廃棄物の削減 可燃ごみ（紙ごみ）	裏紙プリンターの増設。両面印刷機能 活用。	過剰な梱包やリサイクル紙の再利用。 （汚れの無い綺麗な紙類は梱包材として 再利用）
6.1事業活動での環境配慮 （納入金額 百万円）		
6.2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の 完了件数	机上のシュミレーションと実験による 実証を組み合わせる研究開発を推進す る。	耐震・防災に関する開発を継続。
6.3 事業活動での環境配慮 改善提案件数	月一人1件の目標設定を制定。	日々業務の時短・効率につながる改善 提案を見つける意識を持つ。
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	エコ商品の推奨	環境配慮製品の積極的購入継続。
8.化学物質の管理 社内規定に従い実施	規定遵守	規定遵守
9.自然共生活動 ビオトープ等維持	引き続き新たな生物の飛来、定着を目 指す。	生物が定着しやすい植物の補植。 ビオトープのさらなる進化を目指す。

7.自然共生活動

◇ビオトープ

事業活動において、次の重点課題に関する目標を設定し取り組みます。

2007年の当地への移転以来、当社の癒しスポットでもあるビオトープ。

2020年、地元・けいはんな記念公園の山口所長監修のもと、約1年をかけて大改修を行い、大改修の一環として老朽化していた池にかかる橋を社内にてリメイクしました。

これで子どもたちに安全に遊んでもらうことができます。また、水質改善が進み生き物の生態系維持も継続しております。



【作業中の様子】



【修繕後】



【タマムシが好きな桜の木の設置】

①生態系維持のための「残存調整草刈り」→継続

植栽管理については生物多様性に配慮して草丈を高く刈り残す、刈り草を樹木の周辺に積むなど日常的な維持管理に加えて生き物を呼び集め、定着を促進する工夫を行いました。

この方法を採用することで、生息場所を作り防草・乾燥を防ぐマルチング効果を生み、有機物を持ち出さずに土壌改良に寄与するなどの効果があります。

8月に行った生態調査では植物は16種類、昆虫は21種類（内、2種は京都府RDB記載種）の生態を確認することができました。

②昆虫類の飛来・定着を狙った「補植実験・土壌改良」→継続

ビオトープでみられる生物調査を行っていただき飛来・定着する昆虫類(特にタマムシとアゲハの仲間)を狙った植物の補植、水質浄化及び水生生物の生息環境向上をねらった水辺の植物の補植、鯉の移動を行いました。また土壌の含水量を改善するために池の側面を中心に防水シートに穴をあける作業を行いました。それに加え給水頻度を増加することでナミアゲハの飛来が確認され水の濁りが一定程度改善されました。

◇環境整備

毎週水曜日の朝礼後は全社員での環境整備DAYです。

屋上やビオトープ、会社周辺の草ぬきや清掃などを行っています。



◇雨水再利用

屋上に振った雨は配管を通じ、雨水貯留槽に集められます。

このA棟屋根の雨水を受ける面積は合計872.58㎡。

この地域の年間平均降水量は1㎡あたり、約1.476mm。

1年間で、 $872.58\text{m}^2 \times 1476\text{mm} = 128,798,56\text{m}^3$ の雨がふると推測されます。(1.5リットル 約86,000本)



◇屋上緑化

「芝生以外は全て食べることができる菜園緑化」を目標に社内(主に総務部)で日々菜園の様子を見守っています。四季折々の旬の野菜を栽培しており収穫した野菜は従業員で試食したり、夜ご飯のおかずにしたり…土がついた無農薬野菜はとても新鮮で美味しくいただいています。

また屋上緑化には、夏場は室温上昇を抑え又冬場は外に温度が逃げるのを防ぐ効果があり、冷暖房軽減などの省エネ効果があります。



【収穫された苺】



【今年もイチジクが実りました】



【大きさにビックリ(栗)】

◇太陽光発電

2007年より、本社屋上に10kWのソーラー発電システムを導入し、主として事務所の使用電力相当を発電しています。

「年間約11,500kWh」



2016年2月より、広島県竹原市にて、発電事業に参画(クリーンエネルギー売電事業)。

敷地面積1572m² 45.9kWのソーラー発電システムを保有しています。

「年間約171,800kWh」



◇SDGs宣言

2015年9月の国連サミットで採択された「SDGs宣言」。国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

2020年当社でも「SDGs宣言」しこれまでの会社の取り組みを軸に持続的社会的の実現に向け、自社での取組を講演や執筆を通して、微力ながら貢献できればと考え、活動を推進して参ります。

2021年度には取組を追加（12の取組）し、継続的な活動をおこなっています。



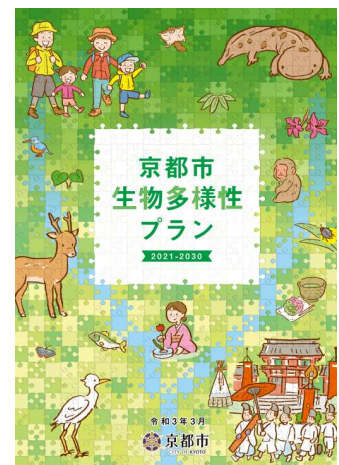
日本ニューロン株式会社
NEURON JAPAN CO.,LTD.

◇「京都市生物多様性プラン（2021-2030）」への推薦

京都市の推進する、「京都市生物多様性プラン（2021-2030）」（※1）へビオトープの環境保全や生態系維持でお世話になっております、けいはんな記念公園様から当社の取組を推薦をいただき、認定に向け活動中です。

※1 「京都市生物多様性プラン（2021-2030）」

京都市が令和3年に策定しました、生物の多様性保全に係る事業者、活動団体の取組を推進し市民の理解を深め「自然共生社会」を目的に活動する取組みです。



8.環境関連法規等の遵守評価結果、違反・訴訟の有無

8-1 適用環境関連法規等及び遵守評価

主な適用法規	主たる管理	評価
消防法	防火/消火設備管理	適合
PRTR法	S D Sの取得と周知	適合
労働安全衛生法	S D Sの取得と周知 設備の届出・有資格者	適合
有機溶剤中毒予防規則	作業場、設備の管理・有資格者	適合
廃棄物処理法	廃棄物保管・処理（委託管理） 委託管理関係書類の報告・管理・保管、社内保管場所の掲示	適合
グリーン購入法	エコ商品を優先して購入しているか	適合
京都府環境を守り育てる条例	略	適合
京都府精華町環境基本条例	略	適合
大阪府流入規制（Nox/PM関連）	適合車の許可取得	適合
フロン排出抑制法	第一種特定製品の管理	適合
高圧ガス保安法	従業員への周知	適合

8-2 違反・訴訟について

環境関連法規への違反や訴訟はありません。

関係当局からの違反等の指摘は、ありません。

9.代表者による全体の評価と見直し指示

(実施日 2023年06月05日)

1.2022年度については、残念ながら、売上が昨年比で約6%減少する結果となった。原因はコロナ禍の影響が遅れて影響してきたと推測している。大型案件が少なく、少額案件を積み重ねる年となった。しかし、受注残については目標達成をしており、次年度への期待は大きい。

2.環境活動の結果については、電力および化石燃料等の二酸化炭素排出量は大きく削減でき目標達成できている。この結果は、売上が減少して製造本部の残業、休日出勤がほぼゼロとなり、工場稼働時間の減少が結果に表れたものとする。
(全二酸化炭素排出量目標値 100,857 Kg-CO₂ に対して実績値92,256 Kg-CO₂)

環境活動としての結果は評価できるが、企業本来の売上、利益の目標を達成し、尚且つ、環境活動の目標達成が望ましい。

また、「課題とチャンス」と捉えている水道関連事業の売上が徐々に増えてきており、次年度は期待ができる。

もう1点は、改善提案の件数が大幅に減少しています。まずは各自の業務を見直し、改善意識が重要です。

3.今年度については、環境経営方針の変更はありません。

新しい研究所 サウスラボ「管路防災研究所」での「SDGsへの取組推進」を追加しました。

4.実施体制は、現状を維持致します。

5.SDGsについては、2020年2月に宣言を行い、自社での取組を講演や執筆を通して、社内外へ活動報告を行っております。あらたな取組を追加し、継続的な活動をおこなっております。

総合評価 見直し・指示

2022年11月に竣工した、日本初の「管路」に特化した研究所「けいはんなサウ斯拉ボ 管路防災研究所」では、現在多くの官庁、企業、団体の視察説明会を実施しています。

新開発の防災継手の紹介やφ2700mm x 6300mmの実物サイズの配管変位耐震試験「大変位耐震試験機」のデモンストレーションを行っており、来所後に実際の試験を受注しており、今後も多いに期待ができます。

水道事業の売上が伸びることと合わせて、電気や水の使用量が増加していくことは、致し方ないと思えるが、事業所内での「カーボンニュートラル」を心掛けていきましょう。